

9/12

自慢ののどを披露

9月2日で11歳になった五十嵐清さんに、道内最高齢者への知事祝い状と記念品が、網走支庁三橋寛之副支庁長より伝達されました。

贈呈式は溪樹園で、家族や入所者・職員、町長などに囲まれて行われました。

報道陣から長生きの秘訣についてのカメラを向けられると「毎朝、マッサージをしている」と元気に述べた後、故村田英雄さんの名曲『王将』を歌い、自慢ののどを披露しました。

いつまでも、お元気で。



祝い状を読み上げる五十嵐さん

8/23

夏のレクリエーション



紅白のオセロゲーム

滝上町児童館で小学生を対象にした「夏のレクリエーション」が行われました。

今回も滝上高等学校ボラティア部の皆さんのご協力をいただき、「ジャンケンリレー」や「一両進み列車リレー」などのゲームや、ビンゴゲームをおして楽しい一時を過ごしました。また、この日は「ヨーヨーパフォーマーKENさん」のヨーヨーも見ることができ、子ども達は大喜びでした。

9/7

ハッケヨイ、ノコッタ

9月6・7日の2日間、滝上神社の秋祭りが行われました。神社境内では、子ども相撲が開催され、たくさんの子どもたちが参加しました。取り組みは、学年別に男の子も女の子も入り混じって行われ、元気に相撲を取っていました。参加すると賞金がもらえることもあり、飛び入り参加や、繰り返し何番もの取り組みを行う子どもたちもたくさんおり、境内には子どもたちの元気な歓声が響きました。



3人抜き相撲もありました

8/16

道警音楽隊が滝中吹奏楽部を指導



トランペットのパート練習

「夏に恋まつり」での演奏のため来町した北海道警察音楽隊が、演奏会の前に滝上町中学校の吹奏楽部の指導してくれました。パート毎に各教室に分かれて練習、中学校の生徒は緊張しながらも隊員のみなさんの熱心な指導に真剣に取り組んでいました。

その後、まつり会場においては合同で「涙そうそう」など2曲を演奏、息のあった演奏で会場に訪れた観客を楽しませました。

8/26

イタドリ
のトンネル

滝上幼稚園と滝美・濁川保育所の3歳以上の子どもたちが、幼稚園で交流しました。これは、数年後に幼児数が減少する中、幼保一元化が予定されていることから子どもたちや先生方が交流し、共通理解を図る目的で初めて行われたものです。

子どもたちはすぐ仲よしになり、自然豊かな幼稚園の斜面を活用した探検コースで、ロープをつたって30メートルほどの山を登ったり、イタドリでできた坂道のトンネルを降りたりと、大きな歓声が裏山に響きわたっていました。

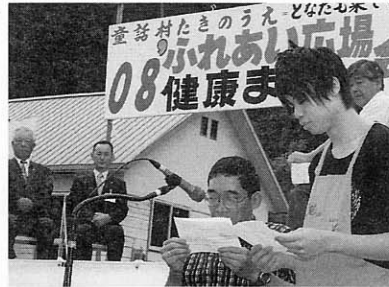


裏山で楽しく遊ぶ子どもたち

8/31

皆さんと手を
たずさえて

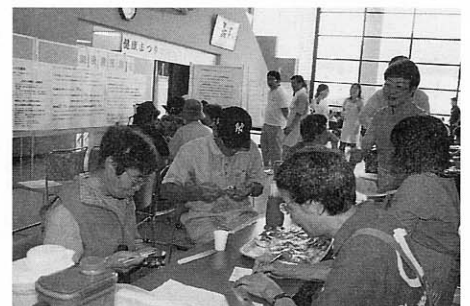
「ふれあいで生まれる正しい理解」をスローガンに障がい者、高齢者、子どもと地域住民がひとつになることを目的として、『童話村たきのうえ2008ふれあい広場・健康まつり』が文化センター・ロータリーで開催されました。



ふれあい広場開催アピール

このイベントは福祉関係団体・子ども会など23団体170人の協力で行われています。会場には車いすやアイマスクなどで高齢者の疑似体験コーナーや、ダルマ落としやコマなどの昔の遊びを体験するコーナーが開設され、子ども達やお年寄りがお互いに交流していました。

また、文化センターロビーでは、血液の濃度を測定して、測定結果によりサラサラにするための食べ物の紹介や、栄養相談などを行う健康まつりも同時開催されました。会場には、食べ物コーナー・ちびっ子出店コーナーなどもあり、約600人が集まり賑わいました。

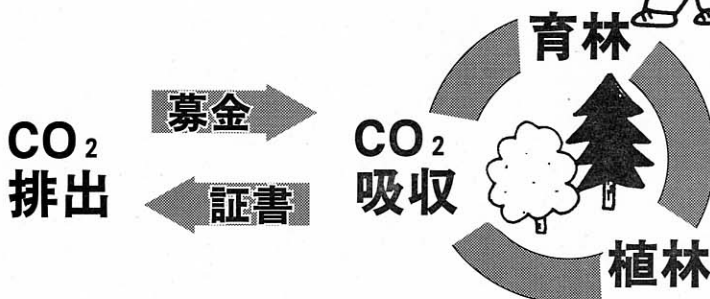


健康まつりの試食コーナー

先端を行く『協働の森』

このほど、下川町、美幌町、足寄町と本町の4町で、森林バイオマス吸収量活用推進協議会という組織を立ち上げました。会の目的はカーボンオフセットのルール作りと実証をめざすものです。

カーボンオフセットのルール作りというのは、企業が削減しきれないCO2の排出量を、森林を持つ町村が木を育てることで埋め合わせ、それれに対して企業から「寄付」や「資金の提供」を受けようとするもので、そのルールを作って実証して行こうという、環境時代の先端をゆく取り組みです。



※カーボンオフセット (Carbon Offset) とは
日常生活で必ず出てしまう二酸化炭素 (CO2)。これを吸収する木を育てることで、出してしまったCO2 (=カーボン) を埋め合わせ (=オフセット) しようというのが、「カーボンオフセット」です。